

平成28年  
(2016年)

春号

# 大津・南部の農業

発行

滋賀県大津・南部農業農村  
振興事務所農産普及課  
草津市草津三丁目14-75  
TEL 077-567-5421~5423  
FAX 077-562-8144  
メールアドレス ga35@pref.shiga.lg.jp  
発行責任者 古谷 博幸

この印刷物は古紙/パルプを配合しています。

## 目次

- 「近江のキャベツ」が出荷されました！
- 初めてでも取り組みやすい「キャベツ栽培」を目指して
- 新規就農者を紹介します
- 電気さくは正しく使用しましょう
- 安全な農作業を心掛けてください
- 農薬は正しく使用しましょう

## 「近江のキャベツ」が出荷されました！

昨年8月から管内の4JAが連携して生産に取り組んできた広域キャベツは、11月末より「近江のキャベツ」として統一箱で出荷され、地元市場を通じて管内の量販店等で販売されました。

初年度である昨年は、水稻農家や集落営農組織の8生産者が、小麦や水稻作付跡の水田（183a）で定植機などの省力化機械を活用して、試験的な栽培に取り組まれました。

この取組は、水田経営における複合化品目の安定的な販路の確保による所得の向上を図っていかうとするものです。また、地場産野菜を求める消費者ニーズに応え、直売所や学校給食への供給拡大と併せて新たな販路開拓を進めようとするねらいもあります。

関係機関が連携し、「近江のキャベツ」の安定生産と販路確保に向けた取組を支援しています。



統一された出荷箱

### 「近江のキャベツ」の作付場所・面積

	作付場所	作付面積	前作	定植日	
1	大津市	関津	20a	水稻	9/15
2		大物	10a	水稻	9/5
3	草津市	下笠	30a	小麦	8/24
4	栗東市	下戸山	30a	小麦	8/22、24
5	守山市	石田	34a	小麦	8/28
6	野洲市	五之里	30a	小麦	8/23
7		木部	10a	水稻	9/16
8		比留田	13a	水稻	9/16
	合計		183a		



モデル展示ほ



結球はじめの生育状況(栗東市)

## 初めてでも取り組みやすい「キャベツ栽培」を目指して!!

キャベツなどの園芸品目の新たな栽培を始めるとき、野菜の栽培経験が少ない、どれくらいの労働の負担があるのか、作っても売れるだろうかなどの不安があります。これらの不安を少しでも取り除き、初めてでも取り組みやすいキャベツ栽培を推進するため、生産から販売までのサポート体制づくりを進めてきました。

### 1 省力化機械によるモデル実証栽培

機械メーカーの協力を得て、畝立て成形同時施肥機と全自動定植機を利用した省力化栽培に取り組んでいます。また、麦専用の緩効性肥料を用いて追肥回数の削減を検討しています。

肥料の効き方や生育状況などを調査しながら省力安定生産を実証しています。

### 2 苗の供給体制づくりと栽培技術支援

苗は各JAが育苗し、供給されました。

底面給水育苗技術を導入して育苗の省力化の検討も始まっています。

9月下旬と10月下旬の2回に渡り、関係機関で現地巡回を実施し、生育状況の把握により販売に向けた情報共有を図るとともに、適切な施肥や病害虫防除の実践につなげています。

11月上旬には生育の早い栗東市で、現地見学会と市場担当者を交えた出荷対策会議を開催し、荷姿の統一など有利販売に向けた支援を行いました。

### 3 特色あるキャベツと仲間づくりが課題です

1箱6～8玉入り(10kg)が約2,500箱(1月末現在)出荷されています。今作は暖冬の影響を受け、全国的に重量野菜の価格が低迷しており市場販売価格は例年に比べ安くなっています。

「近江のキャベツ」においても厳しい状況ではありますが、一定の評価を得ており継続した取り組みが求められています。今後は面積拡大による販売量の増加と、より一層特色あるキャベツづくりを進めて販売競争力を高めていくことが必要です。面積拡大には個々の規模拡大と仲間づくりをすすめたいと考えています。この取り組みに興味を持っていたただける方はお近くのJAまたは市、当課までお問い合わせください。



畝立て成形同時施肥機



現地見学会



底面給水育苗

初出荷を迎えた生産者(大津市)



## 電気さくは正しく使用しましょう 誤った使用は重大な事故につながる危険性があります

昨年7月、静岡県西伊豆町で「電気さく」に感電し、7名が死傷するという事故が起きました。平成23年にも兵庫県で同様の事故が発生しています。

これから春の農作業の時期となり、獣害対策に電気さくを設置するケースが増えてきます。痛ましい事故が二度と起きないように、適正な電気さくの設置と管理をお願いします。

### ●必ず、電気さく専用の機器を使用しましょう

電気さく専用器はおよそ1.5秒の間隔で電気が流れ、動物に対し瞬間的にショックを与えるので、万が一、人が触れても流れる電流が少なく安全です。



電牧器の例

### ●家庭電源を使用する場合、必ず「漏電遮断器」を設置しましょう

家庭のコンセントを電源とする電気さく専用器の場合は、漏電遮断器の設置が必要です。



漏電遮断器  
の例

危険表示板  
の例

### ●注意喚起のため、必ず「危険表示板」を設置しましょう

人が見やすいように、文字ははっきりと見やすく表記し、目立つ場所に適当な間隔で設置しましょう。

**電気さくは正しく使えば安全なシステムです**

## 安全な農作業を心掛けてください

平成26年度の農作業事故の発生件数は40件、そのうち死亡・重症事故は22件でした。農作業事故は刈取・脱穀の作業時に次いで、耕うん・代かき、草刈り時に多発しています。次の点に注意して安全な農作業を行いましょう。

- ・草刈り時の足場が滑りやすくなっていませんか？
- ・防護メガネ、滑りにくい靴を着用していますか？
- ・機械の点検時はエンジンを切っていますか？
- ・トラクターで道路を走行するときは、左右のブレーキを連結していますか？



## 農薬は正しく使用しましょう！ ~散布の前にラベルの再確認を！~

春を迎え、病害虫防除のため農薬を使用する頻度が増えてきます。

農薬を不適切に使用したことが原因となる死亡・中毒事故は、全国で毎年30件前後発生しています。また、誤った農薬散布が公表され、産地ブランドのイメージを著しく損ねた事例も、過去に何度か報告されています。

自らの手で産地ブランドを守り、安全安心な農産物を生産していくために、農薬散布にあたっては今一度ラベルを読み直し、適用作物や適用病害虫、希釈倍率、散布量、使用時期など正しい使用方法を確認したうえで、周囲に飛散しないように細心の注意を払いながら、安全に散布するようにしましょう。